

❖ オープンハウス(体験学習)

全国の高等専門学校の学生を対象に、本学の施設・設備を利用して本学教員の指導のもとに実験や実習を体験するオープンハウスを実施しています。下記の表は、電気電子情報工学分野で実施したオープンハウスのテーマの一例です。

オープンハウス研修テーマ

- 液晶ディスプレイデバイスの作製と評価
- 溶液塗布による透明太陽電池の作製
- トポロジー最適化を用いた電気自動車用モータの設計体験
- ロボットアクチュエータの制御を実践!
- 真空装置を用いて環境や人に優しい+低コストな次世代太陽電池を実際に作ってみよう!
- 電気を制するパワーエレクトロニクス技術を実践
- 目に見えない光を操る
- 身近な数学の不思議～工学への応用を体験しよう!～
- シミュレーションで見る原子や電子の世界
- 画像処理AIのプログラミングを実践してみよう!
- 作って学ぶテラヘルツメタマテリアル
- 小型レールガンを作ってみよう!
- 脳の信号によるロボットアーム操作
- 身近な省エネルギー技術「パワーエレクトロニクス」を体験!
- 3D映像の基礎～プロジェクションマッピング・トリックアートCGを作ってみよう～
- 空中に浮かぶ映像を創って操ろう
- 体感!!プラズマ
- 音を自在に操ろう! オーディオ処理システムの試作と評価
- 偏光回折素子が映し出す空中映像



❖ メジャー・マイナーコース

自己の専門分野(メジャー)に加えて、他分野(マイナー)科目を履修し、決められた要件を満たした場合にメジャー・マイナーコースの修了が認定されます。マイナーとして学ぶ学生のために、各分野の基礎から応用まで科目が準備されており、各自の基礎知識と特に学びたい内容に応じて科目を選択することができます。所定の単位を修得すると、修了したマイナー分野が記載された卒業証明書が発行されます。詳しくは本学のホームページ等をご参照ください。

❖ 技術革新フロンティアコース

従来の工学分野に軸足を置きつつ、未踏分野や融合領域に果敢にチャレンジできる人材を育成するために、技術革新フロンティアコースが新設されました。このコースでは各自の専門分野(例えば電気電子情報工学分野)に所属したうえで、通常のメジャー・マイナーコースより広い分野からマイナー科目を選ぶことができ、融合分野の基礎を身につけられます。また、このコース生を対象としたリベラルアーツ教育により、STEAM人材に必要な素養も身につけられます。通常の学生より早期に研究室に配属され、より実践的な研究開発が行えます。詳しくは本学のホームページ等をご参照ください。

長岡技術科学大学 電気電子情報工学分野

〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町1603-1 TEL.0258-47-9292(電気系事務室) FAX.0258-47-9500
電気電子情報工学分野ホームページ <https://denki.nagaokaut.ac.jp/>

このパンフレットの内容の無断転載を禁じます。

©2025.4 長岡技術科学大学 電気電子情報工学分野

ELECTRIC
ENERGY
AND
CONTROL
ENGINEERING

「始まり」をつくり

ELECTRONIC
DEVICES
AND
LIGHT WAVE CONTROL
ENGINEERING

「始まり」にふれる

INFORMATION,
TELECOMMUNICATION
AND
CONTROL

長岡技術科学大学 工学部 工学課程 電気電子情報工学分野

Electrical, Electronics and Information Engineering

長岡技術科学大学 大学院工学研究科 修士課程 工学専攻
電気電子情報工学分野

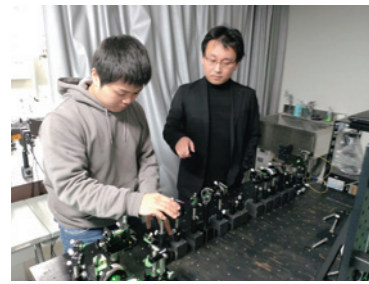
ハイテクノロジーで21世紀を開拓する

電気電子情報工学分野では、『電気エネルギー・制御工学』、『電子デバイス・光波制御工学』、『情報通信制御工学』の各分野が系統的に学べるように教育カリキュラムが配慮されています。また、学部・修士一貫教育、及び国内外の企業・研究機関等における実務訓練(インターンシップ)に代表されるユニークな高度技術者教育の理念に基づき、実践的・創造的な技術者・研究者の育成を目指しています。

2人に **1人**

学生数あたりの教員数

学部3年生の学生定員94名(目安)に対して40名の教員*が教育にあたっています。オフィスアワーも充実しています。
*量子・原子力統合工学分野兼任教員を含む



11人に **1人**

留学生の割合

世界中からやってきた留学生がともに学んでいます。国際交流イベントも数多く、留学生サポートも充実しています。



9人に **1人**

海外で学ぶ学生

実務訓練や短期留学制度によって、グローバル化社会に対応できる実践的な技術力やコミュニケーション能力を身につけることができます。



数字で見る技大生!

10人に **9人**

大学院進学率

実務訓練で身につけた実践力にさらに磨きをかけるため、殆どの学生が大学院に進学します。高専の専攻科からも多くの学生が大学院に入学しています。



1人に **2件**

教員あたりの産学共同研究件数

共同研究、受託研究、寄付金、技術開発センタープロジェクト等によって大学と企業が密接に連携。研究成果は皆さんの身近なところにも活かされています。
(令和5年度の産学連携件数 99件)



就職率 **100%**

就職希望者に対する求人数は1人に約357社。本学で身につけた高い実践能力や専門知識が求められています。

【令和5年度(令和6年8月最新)】

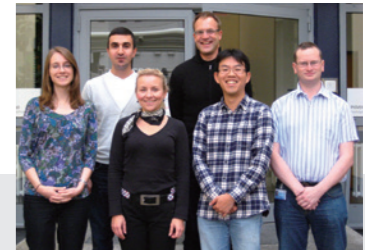
- 求人企業 31,427社
- 就職希望者 88名
- 内定者 88名



技大時代がグローバルに働く礎に

田中 紀彦 メルクエレクトロニクス株式会社 ディスプレイソリューションズ 事業本部長

2006年に博士(工学)を長岡技大で取得後、ドイツ系化学会社の日本法人Merck Ltd. Japanに就職。その後2010年からドイツ本社Merck KGaAの研究所で、ワールドワイドプロジェクトのプロジェクトディレクターとして機能性化学品(主に液晶および光反応性ポリマー)の研究をしています。英語・ドイツ語を駆使して、世界中からやってきた研究者、ラボスタッフと多くの材料を開発し、商品化(Smartphone用材料など)してきました。技大で培った知識・経験などが現在の仕事の糧になっています。



ラボスタッフとのグループショット。ドイツ、イギリス、ポーランド、トルコそして日本の国際チーム



好機に恵まれた技大生生活

百崎 龍成 林テレンプ株式会社開発統括 光学開発室

技大は、4か月以上の長期インターンシップ制度である実務訓練をはじめ、貴重な経験ができる大学です。私は実務訓練と文科省の制度で、学部生時代に2度にわたって(計半年以上)インドに研究留学していました。インドはとても暑い/熱い国で、渡航の前後で価値観を大きく変えられました。勇気を出して行ってよかったと思います。また、技大は産学連携も盛んで、研究室レベルでも各企業と共同研究を行っています。面白い研究開発シーンに携わることができるかもしれません。他にも、技大にはたくさんのチャンスがあります。ぜひ好機は逃さず、確実にものにしてくださいね。



インド工科大学マドラス校のシバラマン教授と各国からの留学生@インドの砂浜。



世界最先端の研究に取り組むことのできる充実した環境

武田 美咲 東京工業高等専門学校 電気工学科 助教

私は博士号を取得するまでの約9年間を長岡技大で学びました。9年間学んで感じた長岡技大の魅力は、全国各地の高専出身者、留学生、社会人など多様な人々に囲まれながら世界最先端の研究に取り組むことのできる充実した環境があることです。博士課程では腕の運動にみられる法則性を運動方程式に基づき説明する研究に取り組みました。研究成果は神経科学分野で有名な国際学会で発表しました。自身の研究に対する世界中の研究者の生の反応がみられたのは貴重な経験でした。長岡技大での経験が困難なことにも粘り強く取り組み成し遂げる力を醸成してくれました。



国際学会(IEEE SMC 2017)でカナダのバンフに行ったときの写真。



実務訓練から広がる大きな世界

門脇 悟志 公益財団法人 鉄道総合技術研究所 車両技術研究部 駆動システム研究室 主任研究員

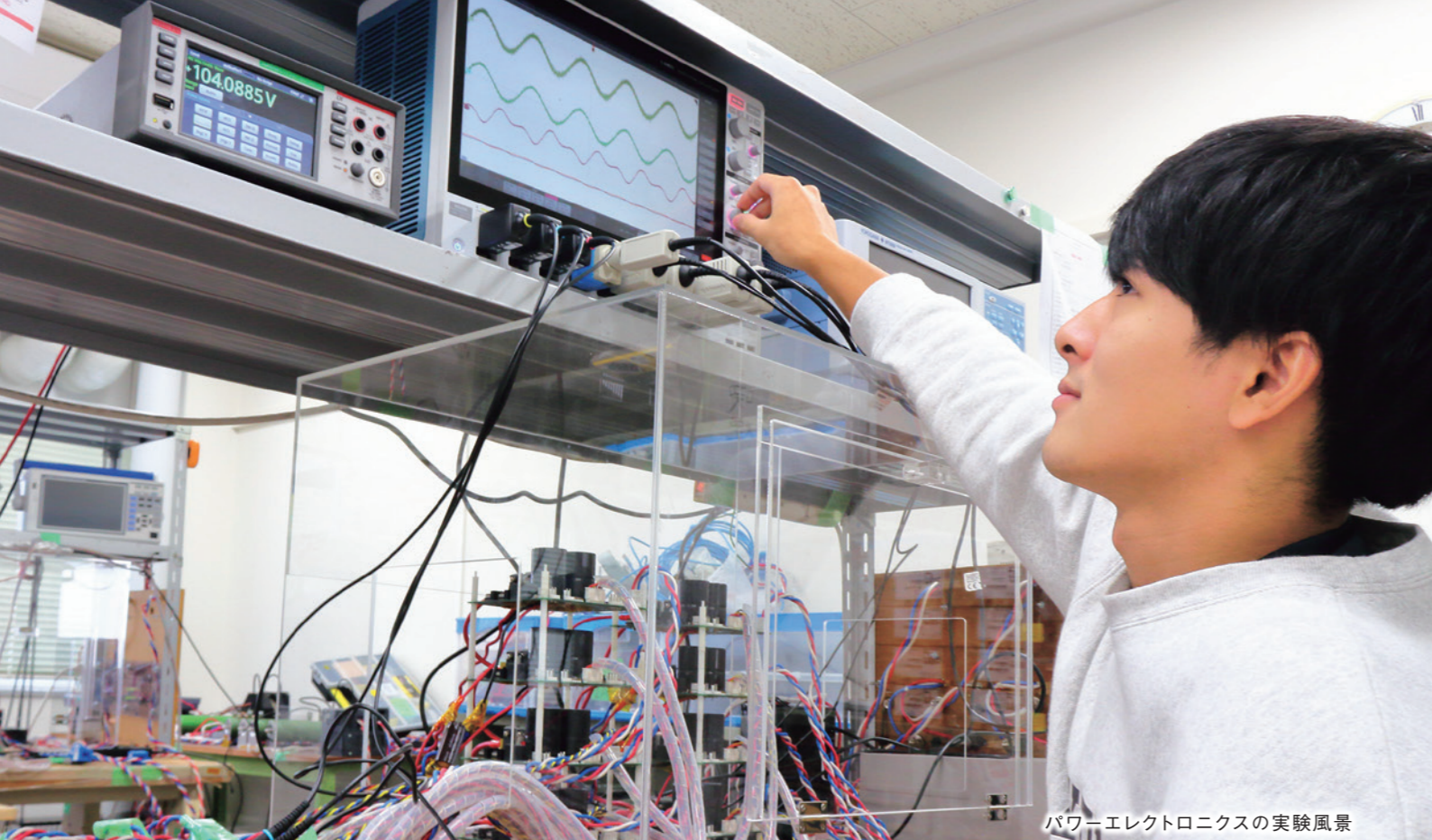
長岡技大の特徴は、何と言っても学部4年生のときの実務訓練。最近ではインターンシップを導入し始めた大学もみられますが、長岡技大はその期間が約4か月半に及びます。つまり、単なる就業体験にとどまらないのです。私は、鉄道車両の電機品を設計、製造するメーカーで実務訓練を行い、電車の車輪のスリップやロックを防止する研究に従事しました。実務訓練終了後の大学院生時代にも引き続き研究に取り組み、関係者の尽力もあって、その成果は実用化されるまでに至りました。博士(工学)の学位取得後は、公益財団法人鉄道総合技術研究所に就職し、長岡技大で学んだことを礎に未来の鉄道車両の新しいカタチを研究しています。



リチウムイオンバッテリーを搭載し、架線がなくても走行できる省エネ型ハイブリッド試験電車「Hi-tram(ハイトラム)」号の前で、現在の研究室の仲間と共に。

こんな企業に就職しました

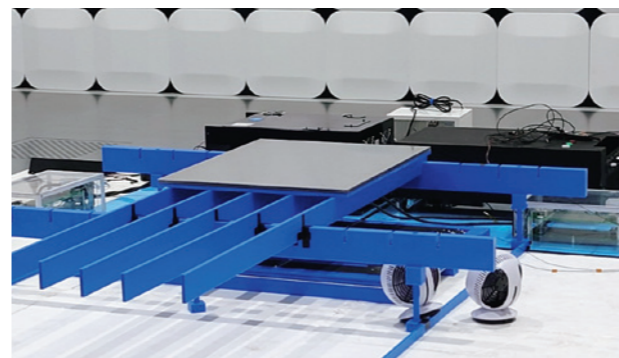
- 株IHI
- セイコーエプソン(株)
- 三菱電機(株)
- 本田技研工業(株)
- 北海道電力(株)
- アクセンチュア(株)
- 東京エレクトロン(株)
- ダイキン工業(株)
- 株デンソー
- マツダ(株)
- NTT東日本グループ会社
- 株INPEXエンジニアリング
- 日亜化学工業(株)
- パナソニック(株)
- トヨタ車体(株)
- コナミグループ(株)
- さくらインターネット
- 大日本印刷(株)
- 株GSユアサ
- 富士電機(株)
- 日本精機(株)
- 関西電力(株)
- チームラボ(株)
- 信越化学工業(株) など



パワーエレクトロニクスの実験風景

電気エネルギー・制御工学領域

ELECTRIC ENERGY AND CONTROL ENGINEERING



非接触電力伝送装置

非接触電力伝送とは、電力の送受信間に配線がなくても受信側コイルに送電することが可能な技術で、将来ノートパソコンや電気自動車などに適用することができるように大電力向けの研究を進めています。

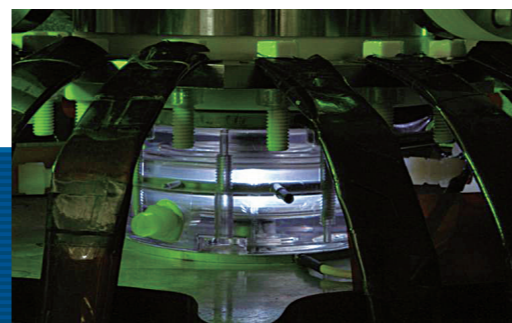


歩行式電動アシスト台車

重量物を載せて不整地を軽快に走破することを目的とした電動アシスト台車を、制御の技術を応用して開発しています。

産業用ロボットのモーション制御

産業用ロボットマニピュレータの高速かつ精密な位置決め制御に関する研究および外乱オブザーバを用いたセンサレス力制御に関する研究を行っており、実用的な制御手法の確立を目標としています。



大電流パルスパワー発生装置による高エネルギー密度プラズマの生成

次世代のエネルギー源と期待されている核融合やMHD発電を実現するためには、高エネルギー密度プラズマの特性を明らかにする必要があります。パルスパワー技術と高速計測技術を駆使して次世代のエネルギー開発に必要なプラズマの特性を評価しています。



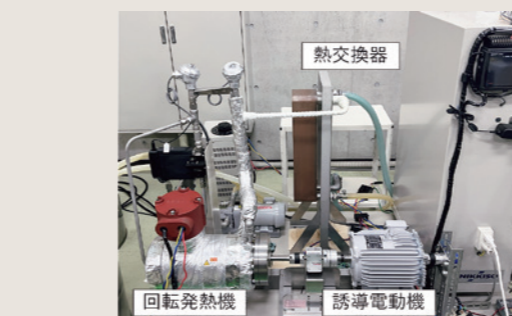
高繰返しパルスパワー発生装置“ETIGO-IV”

世界に類を見ない高繰返し性を有するパルスパワー発生装置で、大強度電子ビームや高出力マイクロ波発振などを行うことで様々な分野に応用が可能です。



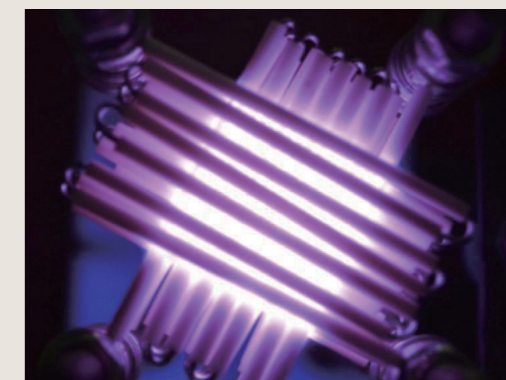
USPMを使った蓄電機能付き太陽光発電向けPCS

ユニバーサルスマートパワーモジュール(USPM)を開発して誰でも簡単にパワーエレシステムを構築できるようにします。電気自動車、急速充電器、スマートインバータなどに応用可能です。



蓄熱システムに適用する回転発熱機

電力系統安定化のために再生エネルギーの余剰電力を熱エネルギーとして貯蔵する蓄熱システムの実現を目指して、効率よく電熱変換できる回転発熱機の研究をしています。小型試験装置を用いて電力と熱の制御手法を実証しています。

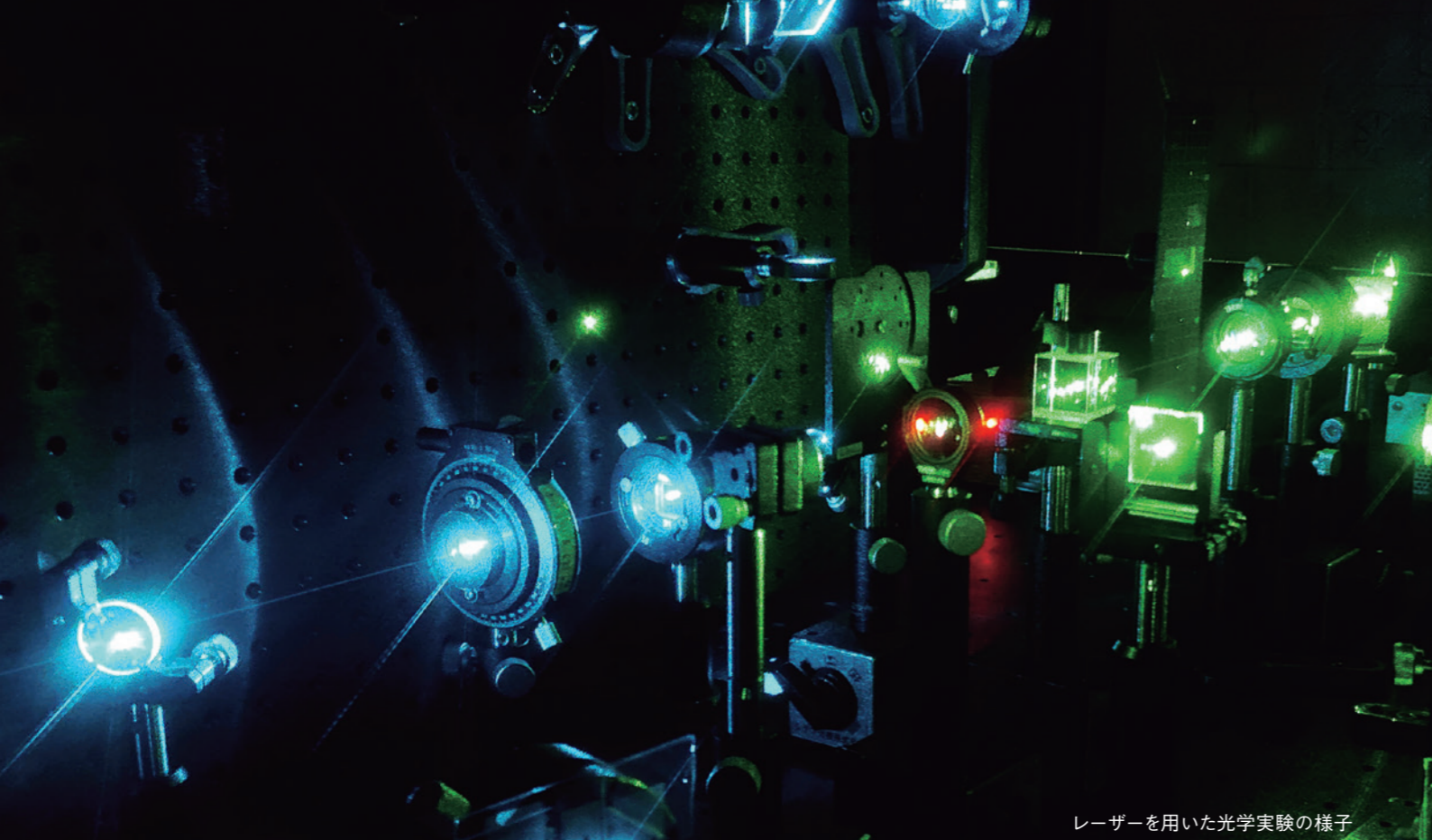


新奇な大気圧プラズマ発生法とその応用

反応性の高いプラズマを大気圧下で自由に発生させる手法を確立させることで、排ガス処理等の環境応用、殺菌・滅菌処理、表面処理などに応用することが可能です。

本領域では、電気エネルギーに関する技術を習得し、次世代の実践的・指導的技術者や研究者となる人材を育成することを目指しています。最先端のエネルギー発生・制御技術に携わる教職員の指導のもと、民間企業との関わりを持ちながら電気エネルギー利用の基礎から応用まで幅広く俯瞰できる教育・研究を行っています。

- ▶ モーションコントロール研究室
- ▶ プラズマ工学研究室
- ▶ パワーエレクトロニクス研究室
- ▶ パルスパワー工学研究室
- ▶ メカトロニクス研究室
- ▶ 電工学研究室
- ▶ 先進エネルギー変換研究室



レーザーを用いた光学実験の様子

電子デバイス・ 光波制御工学領域

ELECTRONIC DEVICES AND LIGHT WAVE CONTROL ENGINEERING

本領域では次世代を担う電子工学の基礎から応用まで幅広く習得することを目指しています。
IT時代の情報通信機器には半導体やレーザー・光スイッチ等の先端デバイスが用いられています。
本領域では先端デバイスの研究に携わる情熱あふれた教員の指導のもと、
一流の技術者・研究者を社会に送り出すべく教育が行われています。

- ▶ 液晶デバイス研究室
- ▶ 電子セラミックス研究室
- ▶ 光エネルギーデバイス研究室
- ▶ 応用波動光学研究室
- ▶ 電磁波制御デバイス研究室
- ▶ 光物性工学研究室
- ▶ 高出力レーザー開発・応用工学研究室
- ▶ ナノエレクトロニクス研究室
- ▶ メタマテリアル研究室
- ▶ 計算材料科学研究室

極低温磁気特性測定装置

次世代型の1インチ平方あたり2テラビットを超えるようなハードディスク材料や、高温超伝導体などの開発において、絶対零度付近の極低温での磁気特性の計測は必要不可欠です。本装置は、5テスラの超伝導マグネットとSQUID素子を組み合わせることで、地磁気の1億分の1以下の微弱な磁場を計測できる装置です。

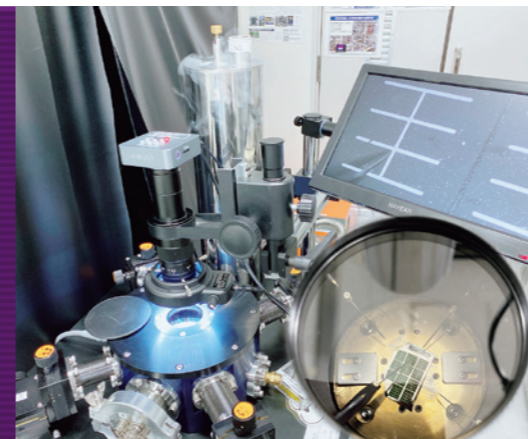
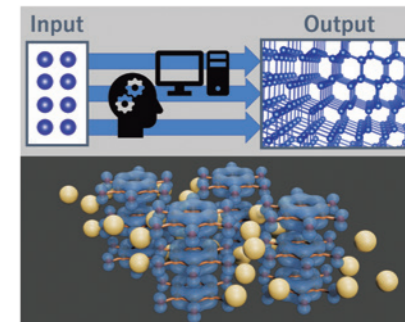


発光材料

様々な化合物中に希土類元素を添加すると非常に強い発光を示します。これらは、白色LEDやプラズマディスプレイパネル等の照明・表示素子に広く活用されています。より高性能な発光材料(蛍光体)および照明・表示素子を作製するための研究を進めています。

結晶構造探索と第一原理電子状態計算

組成の情報から安定構造を予測する結晶構造探索手法を開発しています。また、その応用として第一原理電子状態計算を用いて半導体やリチウムイオン電池などの材料設計を進めています。



マイナス193℃から200℃まで 温度制御可能な 真空マイクロチャンバー

この写真に示されている装置は容器内(すなわち、チャンバー)を真空状態とし200℃から-193℃まで温度制御できるものです。チャンバー内に備わっている針を太陽電池などのデバイスの電極部にあてた状態で別の電氣的測定装置と組み合わせることにより温度に対する電氣的な特性の変化を観測することができます。

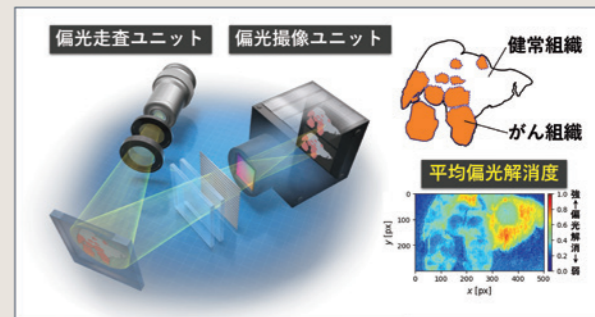
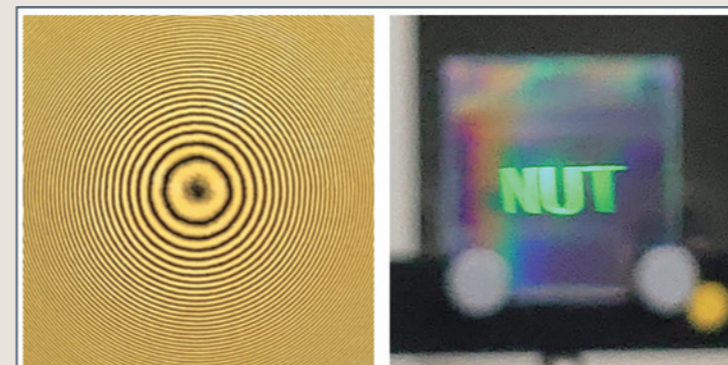


液晶ディスプレイ"印刷"装置

まるでプリンターで印刷するかのような方法で液晶ディスプレイや太陽電池を作製する世界最新の装置です。真空環境や高温プロセスが必要ない「環境に優しい技術」の確立に挑戦しています。

大面積偏光フレネルレンズと空中映像

偏光状態に応じてレンズの集光機能と拡散機能を切り替えられる特殊レンズを開発しています。応用事例として、偏光回折に基づく高効率な空中映像の表示システムへ展開しています。



偏光走査型偏光撮像装置と偏光撮像の実施例

被写体の偏光空間分布をイメージングする独自の装置を開発しています。偏光画像には通常のカメラで撮影される色と明るさの画像からは見えない情報が多く含まれています。これからの時代における各種遠隔技術の普及に必要な情報革新の目としての社会実装を目指しています。

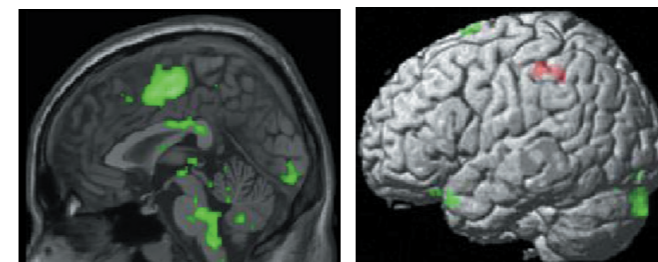


人間の脳活動データを用いたBrain-Computer Interface

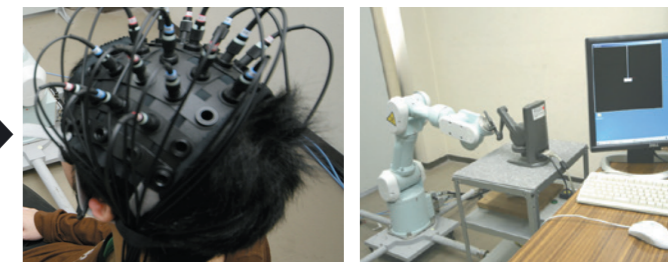
情報通信制御 工学領域

INFORMATION, TELECOMMUNICATION AND CONTROL

脳内情報処理の理解から
Brain-Computer-Interfaceへ



非侵襲による脳活動信号を利用してロボットを
自由に制御するための要素技術の研究・開発



計算論的神経科学に基づいた脳情報を使ったロボット制御・ヒューマンインターフェイス技術の開発

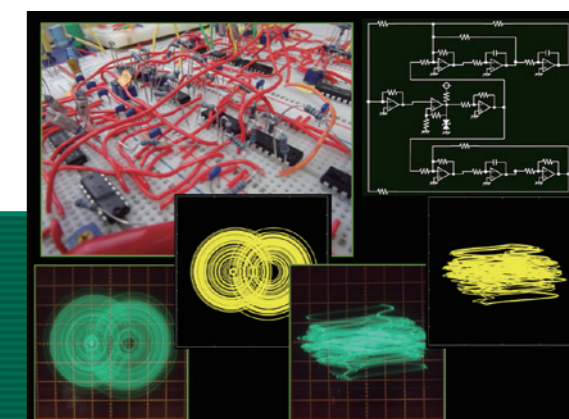
小型のモニタリング機器を個人で設置

家のテレビ等で予想される被害や対策の候補を確認

監視カメラ IoTエッジデバイス

災害リスクが住民に通知

広帯域で低遅延な情報通信技術と災害リスクを自動推定するAI・マルチメディア信号処理技術を活用したパーソナルな地域防災システム



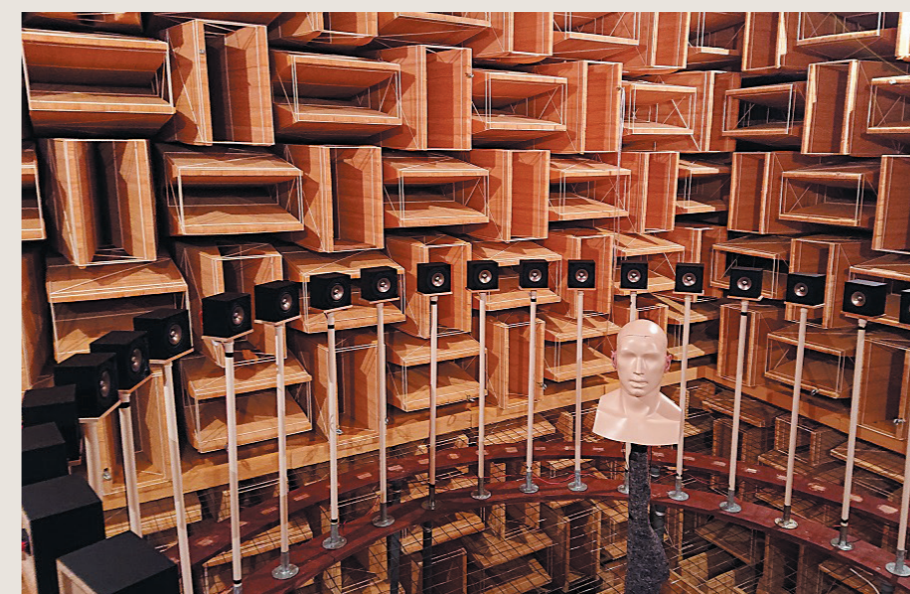
複雑系を利用した人工知能の開発

図はカオスと呼ばれる未来予測が不可能でランダムな振動現象を確率要素を含まない電子回路で実現したもの。理論的に導出される解軌跡と良く一致していることが分かる。この複雑なカオス現象を利用したリザパコンピューティングによって時系列予測などを行う新しい人工知能の開発を行っています。

本領域は、コンピュータとネットワーク、すなわち情報と通信に関する高度な技術を幅広く習得することを目指しています。

ビッグデータやAI(人工知能)を活用した情報通信技術が急激に進展しているなかで本領域では、広い視野を持って新しい情報通信社会の発展に貢献できる技術者・研究者を輩出すべく、様々な分野の第一線で活躍する教員による教育と指導を行っています。

- ▶ 画像・メディア工学研究室
- ▶ 脳情報工学研究室
- ▶ 非線形システム工学研究室
- ▶ 画像計測システム工学研究室
- ▶ 信号処理応用研究室
- ▶ データシーケンス構造研究室
- ▶ システム制御工学研究室



無響室での音響実験

「無響室」は壁全面がグラスウールで囲まれた特殊な部屋です。外部からの音は遮断し、内部の音は反射をしません。無響室などを利用して、音の方向知覚や立体音響再生などの実験・研究をしています。



空中ディスプレイに関する
研究・開発

特殊なメガネなどを身につけることなく、装置の周りに浮かび上がった映像を見ることが出来るディスプレイです。映像に触れたい、立体的に表示したいなど、課題に合わせた様々な表示手法を研究・開発しています。

1. 求める学生像

本学は、活力 (Vitality)、独創力 (Originality) 及び世のための奉仕 (Services) を重んじるVOSの精神をモットーとして、実践的・創造的能力を備え国際的に通用する指導的技術者・研究者を養成することを目的に、学部から大学院までの一貫教育を行っており、次のような学生を広く求めます。

- 技術や科学に強い関心を持ち、それに関わる学習に必要な基礎学力をもつ人
- 知識をもとに思考を深め、それにより判断したことを適切に表現できる人
- 新しい分野の開拓や理論の創出、ものづくりに意欲をもち、技術や科学を通じて社会に貢献したい人
- 自ら積極的に学習や研究に取り組み、問題解決のために多様な人々と協力できる人
- 優れた個性を発揮でき、責任感のある誠実な人

2. 入学までに履修が望まれる教科・科目等

各高等専門学校、短期大学、専修学校等が定める教育課程に従い、すべての教科、科目について、専門課程で勉学を進めるために必要な基礎を修得していることが求められます。

特に、電気電子情報工学分野の授業内容を理解するために必要な数学と理科、及び情報関連科目と専門科目の内容を理解し、思考や表現の基礎となる国語(日本語)、英語の能力を身につけておくことが望まれます。

電気電子情報工学分野では、数学と専門科目で入学後に次の知識がとりわけ必要となります。未履修であっても、入学前に基礎的内容を自習しておいてください。

- 数学: 解析、代数、確率・統計
- 専門: 電気回路、電気磁気学、情報処理

